

3 自主的な課題追究がなされるように配慮した授業展開例

教科(科目)	日本史 B	単元名	歴史の追究
本時の主題	世界の中の日本(日韓関係を中心に) (4時間目 / 4時間)		
本時の目標	<p>(1)親密化を増した日韓関係を背景に、両国の歴史への関心を高めるとともに、現在まで依然として残る日韓間の問題が、日韓併合を中心とする日本の朝鮮支配に起因することに気付くとともに今後のより良い日韓関係、さらにはアジア近隣諸国との関係の在り方について考える。 【思考・判断】</p> <p>(2)調べた内容をレポートにわかりやすくまとめ、発表する。 【技能・表現】</p>		
指導のねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・親密化を増した日韓関係をイメージする。 ・日韓関係の問題点を例示し、その内容をまとめる。 ・日韓関係の問題点を発表する。 ・問題点の内容を理解する。 ・問題の原因が何かについて仮説を立てさせる。 <p>(1~3時間目)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ W杯サッカーの共催などでこれまで以上に日韓関係が親密化したことを確認する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ W杯サッカーの共催で日韓関係の親密化を伝えるニュースを視聴する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親密化が進んでいる日韓間に依然としてどのような問題があるかを考え、レポートにまとめる。 </div> <p>調べる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ W杯開催地や大会名決定の経緯 ・ 日韓文化交流問題 ・ 在日韓国朝鮮人問題 ・ 日韓教科書問題などを取り上げる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べた問題点を発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各発表の要点をまとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ これらの問題がなぜ起きているのかを考える。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新以降の日韓両国の係わり合いを理解する。 	<p>身近な事柄をとりあげ、関心を高める。 感想を発表させる。</p> <p><評価方法> 発問、挙手、意見発表</p> <p>【関】</p> <p>新聞記事やインターネット等を利用して現在の問題を調べさせ、わかりやすくまとめさせる。</p> <p><評価方法> 発表</p> <p>【技】 当初の親密と考えた日韓関係とのギャップに気付かせる。</p>	注1
<p>(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近・現代の日韓関係の概略を理解する。 ・ 日韓関係の歴史を調べる。 <p>(35分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 冒頭で調べた問題や感情的なしこりがいつ、どのようにして生まれてきたのかを具体的に調べ、発表する。 </div> <p>調べる内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国併合 ・ 創氏改名 ・ 強制連行 ・ 皇民化教育 ・ 三・一運動など ・ 何を使って、どのように調べればよいかを考える。 ・ 調べた内容をレポートにまとめる。まとめ方はレポート用紙、ワープロ、新聞形式など各人で選択する。 ・ どのように発表するかを考え、必要な資料を準備する。 ・ 調べた内容について発表する。 ・ 各発表の要点をまとめる。 	<p>興味を持った項目について調べる</p> <p>すすんで課題に取り組みさせ、原因や理由などについて考えさせ、わかりやすくまとめさせる。</p> <p><評価方法> 発表、レポートを提出させ確認</p> <p>【技】 他者の発表をよく聞き理解を深める。</p>	注3
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の諸問題と日本の歴史を関連づける。 <p>(40分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初の問題がどうして今も問題となっているかについて、予想と対比しながらまとめる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国民の心情に気付く。 	<p>当初の諸問題と日韓の歴史を関連付けてとらえさせる。</p>	注4
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日韓関係の今後の在り方についてまとめる。 ・ 本時の自己評価を行う。 <p>(50分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の両国の関係がどうあるべきか、自分たち日本人がどう関わっていくべきかを考え、発表する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見をまとめる。 ・ 本時の気付いたことや感想をまとめるとともに、自己評価を行う。 	<p>今後の日韓関係あるいはアジア諸国との関係の在り方について考えまとめさせる。</p> <p><評価方法> プリントに記入させ、提出・確認</p> <p>【思】</p>	注5
			注6

< 指導上のポイントと考察 >

日韓共催の2002年W杯サッカーは日韓関係を考えさせる上で、また、生徒の関心・意欲・態度を引き出す上でも好材料と考え利用した。この大会を通して、日韓関係の親密さや相互理解の深まりを強調しながら、その一方で日韓間が抱える諸問題や国民感情とのギャップに気付かせ、学習の動機付けとする。そして、日韓両国が克服しなければならない「過去」即ち、かつての植民地支配についての課題追究を実践させることによって、過去の両国の関係を正確に把握させるとともに、これらの問題解決のためにどのような取組が必要なのか、自分がどうかかわっていくべきなのかについての問題意識を高め、自身もアジアの一員であることの自覚を醸成するようにする。同時に、生徒が一連の調べ学習を通して課題解決能力を、また、まとめ学習・発表学習を通して表現能力を身に付けることができるように指導する。

日韓関係の取り扱いにおいては、客観性を第一とする。できれば、韓国だけでなくアジア各国と日本との関係にも言及したい。アジアから見た日本、日本から見たアジアなど、両面からアジアの国際関係にアプローチするのも興味深い。

- 注 1 大会中の代表的なシーンを引き出したり、提示したりして関心・意欲・態度を高める。
- 注 2 冒頭でイメージした日韓の緊密な関係とのギャップが浮き彫りになるように提示する。例えば、W杯の開催地決定までのいきさつや大会名をめぐる対立などを例示し、日韓間の特別な関係や感情の存在を理解できるようにする。
- 注 3 中学校やこれまでの学習、あるいは各種メディアを通して定着している知識を活用させ、各自で仮説を立てさせる。
多くの生徒は過去の植民地支配に関係するものにとらえるが、その実態についての知識は充分ではないので、明治維新以降の日韓関係全体や植民地支配についてより深く追究させるように助言する。
- 注 4 調べ活動では、生徒相互に補完しあいながら学習を進めさせ、調べる資料、まとめ方、分かりやすい発表の仕方など互いに意見を出して工夫させる。
- 注 5 当初に調べた問題と日韓間の歴史にどのようなつながりがあるのかをきちんと整理させるようにする。また、日韓間に見られる関係が朝鮮半島全体、あるいは中国や東南アジア諸国についても少なからず当てはまることに言及する。
- 注 6 今後の日韓関係がどのようにあるべきか、どのように接するべきか各自の考えを持たせる。この際、日本と韓国の方に偏った見方ではなく、相互理解の深化や協力関係の強化など問題を乗り越える視点から考えさせるようにする。

* 近年の日韓文化交流の主な動き

1998	キム・デジュン大統領、文化観光省報告を受け、条件付で日本の大衆文化受け入れを表明。
	第一次日本大衆文化開放として映画（三大国際映画祭受賞作品）ビデオ、出版部門を解禁。
	[映画] 『HANA-BI』（北野武監督）、『影武者』、『羅生門』（黒沢明監督）初の全国公開。
	[音楽] ドリームズ・カム・トゥルーの英語曲CD発売不許可。
1999	第二次日本大衆文化開放策で、約70の国際映画祭受賞作品解禁。アニメは除外。2000席以下の室内での日本語の歌謡公演解禁。
2000	[音楽] 釜山国際ロックフェスティバルでSIAM SHADEが日本語で公演。CHAGE&ASKAソウル公演。
	[映画] 『シュリ』大ヒット。韓国映画の上映相次ぐ（於：日本）
	第三次日本文化開放策で、日本歌謡公演の全国開放、劇場用アニメの一部とすべての一般映画の上映など許可、CD（日本語以外の歌）、パソコンゲームソフトなどを解禁。
	CHAGE&ASKAソウル公演、英語版CDリリース。ドリームズ・カム・トゥルー英語版CDで韓国デビュー。
	尾崎豊の「I Love You」をPOSITIONというアーティストがカバーして、50万枚の大ヒット（他に桑田圭祐、因幡晃、玉置浩二、徳永英明の韓国語カバーとPOSITIONのオリジナル曲が収録）